

会議記録

作成部局課名 丸子地域自治センター 地域振興課

| | | | |
|-------|--|------|-----------------------|
| 開催日 | 平成 25 年 2 月 26 日(火曜日) | 開催時刻 | 13 時 30 分から 14 時 55 分 |
| 会議名 | 丸子地域協議会(平成 24 年度第 13 回) | | |
| 出席委員 | 斉藤重一郎会長、丸山かず子副会長、内田弘子委員、北村好美委員、久保田和英委員、齊藤實委員、小宮山好豊委員、佐藤重喜委員、清水三枝委員、竹花和彦委員、竹花節子委員、松山慶子委員、宮崎涼委員、宮下正明委員、村松正孝委員、山本進委員【欠席】池田佐代子委員、工藤裕子委員、中澤ゆかる委員、宮坂雄一委員 | | |
| 市側出席者 | 関丸子地域自治センター長、宮澤センター次長兼地域振興課長、児玉地域振興政策幹、芹澤市民生活課長、高野健康福祉課長、小相沢建設課長、丸山産業観光課長、滝沢上下水道課長、矢島丸子学校給食センター長、大平地域政策担当係長、翠川地域政策担当主査、馬場 | | |

会議次第

1 開会（宮澤センター次長）

本日の報告事項にもありますが、2月17日に開催した市民団体交流会に併せて、わがまち魅力アップ応援事業の実績報告会を開催しました。全委員に御出席をお願いした関係上、この交流会を本年度の第12回の会議と位置づけ、本日の会議を13回とさせていただきますので、御了承ください。

- ・配布資料の確認、欠席委員の報告

2 あいさつ（斉藤会長）

2月も残すところあとわずかですが、本当に寒い毎日が続いています。委員の皆さんには体に十分御注意いただきたいと思います。

先日は市民団体交流会ということで、分科会長さんはじめ委員の皆さん、大変御苦労さまでした。大盛況のうちに終わり、本当に心から感謝しています。

本日も全体会終了後に分科会の開催を予定していますので、よろしく申し上げます。

3 報告

(1) 公共交通に関する分科会からの検討結果について

- ・副分科会長から資料説明。

資料1：公共交通に関する分科会 検討結果報告書

主な質疑の内容

(委員) 資料1の3、分科会において検討した内容について(5)で、「検証するには半年から1年程度の調査期間が必要」ということだが、これはある時間インターバルを置いて何回か調査をやっていく必要があるという意味で書かれているのか。

(副分科会長) 乗降者数調査や聞き取りアンケート等を行った結果を出しているが、まだ調べていく必要があるということ。分科会としては、まずは今後どうしていくかの結論を出したうえで検討したいという意味で、実際は建設課とも話し合わなければいけない部分もあると思う。改訂するということも起きる可能性が高いと思っている。分科会のテーマにもあるが、調査機関のことについてはまだ検討しているところであり、この後の分科会で諮っていきたい。

(委員) 別紙4の聞き取り調査結果、まりんこ号についての自由意見の中に、「東御市のようにしてほしい」という意見がある。これは、具体的にはどんなことなのか。

(建設課長) 東御市のデマンド交通のようにしてほしいということだと思う。

(委員) 別紙1、12月12日に丸子地域校長会で小学校の各クラスに「夏休みキッズパス」アンケートを依頼とある。このアンケート内容と結果がいつ頃出るかを教えてほしい。

(建設課長) 小学校の先生に聞き取り調査を簡単にやっていただいたもので、結果につい

ては、後日分科会へ報告したい。

(委員) アンケート結果を見ると、東御市のデマンドの方が余程いいのではないかと感じる。デマンドに変えるといった方策等、新たな時期に来るのではないかと思う。自治センターとしてどう考えているのか。

(建設課長) 上田市内でデマンドをやっているのは武石地域。全市的な考えがあり、丸子地域だけでどうこうという方針もなかなか出にくいわけである。現在のところは、今あるまりんこ号をできるだけ活用しながらやっていこうということで、交通部会では検討しており、デマンド交通どうこうという具体的な話はまだない。

(委員) それを考える時期に来ているのではないか。色々方策しても、これだけしか乗車しない。人件費等を考えたらどうなるか。自明の理だと思う。いつまでも続けることが公の仕事なのか。そこも考える時期に来ているのではないか。

(副分科会長) 東御市のデマンド交通も武石地域のデマンド交通も分科会の中で調査、研究を行っている。費用対効果で見ると、正直なところ丸子地域の方が武石地域のデマンドよりも良い状態と考えられる。

(委員) 余計に使っているからではないか。

(副分科会長) そういうことではなく、人数制限があるということ。乗車人数が10人以内と制限があるということ。距離的にも武石は大屋まで行っており、武石のデマンド交通の方が費用的に掛かることになる。また、東御市に関しては、あれだけ大きくやればということになるが、實際上、億単位のお金が掛かっている。そこをどう受け止めるか。私どもの方でも、分科会へ上がる前の段階で多くの時間を費やして討議を重ねて事項である。状況からすると、まりんこ号が存在する以上、まずこれを活用するのが先だということで今回の提言を行っている。公共交通について、上田市全体として考えることは今後ともあり得るという話は分科会の中でも受けている。ただ、私たちの提言はそこまではいかれないだろうと思う。確かに、委員さんのおっしゃる部分ももちろんあることも事実。ただ費用対効果は、今後の乗車状況によって変わってくるだろうと思う。全体の利用者数は減っている。ただ、1便あたりの利用者は増えている状況であり、もう暫く様子を見ないとわからない。まだまりんこ号の認知が低く、もっと認知度を上げていかなければならない。PRをもっとしていかないとわからない。そうすることで、利用促進の仕方も変わるのではないかとということ。費用対効果は、まだはっきりしていないところがある。現状とすると、武石のデマンドも課題として残っている。また、東御市のように市全体としてやることになるかどうか、先のことはわからない。しかし、検討してはいるようである。

(会長) まりんこ号については、地域協議会としてもなんとか存続して残したい、有効活用したいということで、運行形態を変更するなど、検討いただいている。今後も分科会として残して検討いただくという形にもなっており、副分科会長からの話にもあったように、なんとかこれを存続させる、有効活用していくことを必死に考えていただいているので、御理解をよろしくお願いしたい。

(2) 市民団体交流会について

- ・2月17日に開催の市民団体交流会について分科会長から報告。
- ・わがまち魅力アップ応援事業実績報告と併せてだったので、二重に参考になったという参加者からの声があった。
- ・本日の分科会でも、資料の参加者アンケート等を考慮し、分科会のまとめをしたい。

当日資料：丸子地域市民団体交流会 報告書

主な質疑等の内容

(委員) 魅力アップ応援事業の実績報告の時間が少し短かった、もっと詳細な発表をいただいた方が良かったのではないかとという参加者からの意見があった。アンケートには、他の団体の取り組みが大変参考になったという具体的な意見が出ており、私も交流会の方はうまくいったのではないかと考えている。実績報告をもう少し膨らませて行えるような工

夫があればもっといいのではないか。確かに時間的に難しいとは思うが、実績報告は実績報告でやり、また日を改めて交流会という形も考えられるのではないか。

(会長) 確かに実績報告は短かったという感じがあると思う。今回の中では、なんとか一緒にやってみようということと実施したわけで、タイムスケジュール的に難しいものがあったと思う。今後の課題としたい。

(委員) アンケートの「団体間連携などについて」の具体的な意見に、実際の交流会からもう少し具体的なところの連携まで持っていきたいという意見が結構多かったと感じている。地域協議会としては、連携の機運を高めるということをやってきているが、今後は具体的な連携まで持っていかれるお手伝いができるかということが、地域協議会としての大きな課題なのではないかと思っている。皆さんにもできればそのような観点で、地域協議会としてどう考えていくかということで、今後取り組みをやっていったらどうかと思う。

(委員) 先ほどの実績報告会と交流会の時間配分について。私は、実績報告会はその程度の時間で良いかと思う。どちらかという交流会の方に、もう少し時間が欲しかったという印象を受けた。

(委員) 活動団体からの意見に、ホームページを使うなどして色々宣伝していきたいということがあった。しかし、年配の方にとってホームページを立ち上げるのは大変だということで、要望として、例えば丸子地域協議会や市でサポートしてくれるような活動をもっとしてほしいとのことだった。

(委員) 県の助成支援と市の助成支援、リーダーの方は結構承知しているが、参加された皆さんの中には、認識が浅い方がいたように感じる。どこが違うのかわかりやすく説明できるようなことも必要ではないかと感じた。

(3) 分科会及び研究会での検討状況について(各分科会等の会長から報告)

【地域の産婦人科医療を考える研究会】

2月13日に研究会開催

- ・アンケート調査について協議。アンケートの目的を「丸子地域の産科医療及び行政サービスの現状についての意識調査」とし、今後アンケートを行っていくことを決定。
- ・次回以降は、アンケートの質問事項等を決定していく。

【地域内分権と地域経営会議に関する研究会】

第3回会議(2月21日)

- ・上田市の第4ステージの展開に関する内容確認、意見交換を行った。
 - スケジュールを組む計画全般について
 - 地域協議会、地域経営会議、住民自治組織の関係性について
 - 自治基本条例と地域内分権の関係について
- ・委員の関心ポイントは、スケジュールを含む全般的なプロセスと、住民自治組織の設立問題と運用問題について。組織の立ち上げ、実際に運用する時にきちんと運用できるリーダーが確保できるのかについて色々議論した。
- ・「気運の醸成」は非常に重要になってくる。各地域でスムーズに運用できるような地域組織をどうやって作っていくかが問題なのではないか。

今後について、県内で先行している他市の立ち上げや運用について、もう少し勉強した上で、ある程度集約して全体会へ報告したい。今後、分科会へ上げていく提案をするか否か含め、もう少し時間を掛けて検討したい。

【丸子ドドンコ見直しに関する研究会】

- ・次回は、3月18日の12時30分から研究会を開催したい。

【新しい観光に関する研究会】

- ・3月中に研究会開催を予定している。
- ・観光客の推移を数字でわかりやすくした資料を準備したい。

【商店街の活力アップ研究会】

- ・移転する丸子中央病院跡地の利用等々、我々委員だけでは考えられない問題がある。
- ・地元出身の市議会議員との意見交換会を3月中に開催予定、現在日程を調整中である。

4 その他

(1) 平成25年度わがまち魅力アップ応援事業審査方法について

(会長)この事業は、公募型の事業であり、申請書を地域協議会で審査したうえ、事業採択の可否を決定するものである。丸子地域協議会からの意見を受けて補助金額が増額になり、補助期間も5年に変更になった。次回会議の際は、申請者から事業説明を受け、審査を行うことになる。しっかりと審査方法を御確認いただきたい。

- ・事務局から資料説明。
- ・前回協議会で説明した魅力アップ応援事業の応募について補足説明。「新たな事業を行う団体は再申請できる」と説明したが、この「新たな事業」とは、今年度行っていた事業を来年度も行いたいという時に、場所が違えば新たな事業として取り扱ってもいいのではないかということ。これまで整備した地域の維持についても、団体には引き続き取り組んでいただくことになると思う。申請が出た場合の確認材料にしていきたい。
- ・現在、書類の具体的な作成について事務局で対応中。問い合わせ等含め、約10件。

資料2：わがまち魅力アップ応援事業（平成25年度事業）選考要領

主な質疑の内容

(委員)資料10ページの【例】について。事業内容によっては、公益性は高いが、一度やってしまうと継続的にやる必要がないような事業がある。例えば、史跡の調査やその調査した結果を看板等作ったり表示したりして、広く地域住民に活用、周知を図るような場合、点数のつけ方が非常に難しくなる。確かに公益性はあるが、継続性や発展性の観点からするとないのではないかと思われてしまう。この場合、点数づけをどうしたらよいか。アドバイスをお願いしたい。

(事務局)資料12ページの選考基準を御覧いただきたい。公益性はあるが、継続性がないという場合について。継続性・発展性の審査の視点で、継続的に取り組まれることが期待できるか。期待できない。新たな事業に発展する可能性があるか。どうもありません。多くの住民に共感される事業であるか。共感される事業であれば、継続性・発展性は、「評価できる」以上で良いのではないかと私は思う。審査の視点を具体的に挙げているが、視点一項目ごとに評価するのではなく、継続性・発展性として多くの住民の皆さんに共感される事業であれば、「評価できる」以上の評価でいいのではないかとと思う。

(委員)7ページの選考対象に、「平成25年度の制度改正による補助限度額の増加で、事業内容が新規に追加される場合は対象とします。」とあるが、例えば、団体で二年次の場合、補助期間が延長になるわけで、その形で新たに申請が出てきた場合、当然対象になるということか。具体的な事例があれば教えていただきたい。

(事務局)昨年申請いただいた事業内容に、新規で新たに追加する事項があれば、審査していただくことになる。ただ、若干金額は増えているかもしれないが、25年度は昨年申請した内容そのままのいくという場合には、昨年審査いただいているため、今回の審査対象からは外したいと思う。さらに、この事業団体が26年度以降も実施したいということで、それについて新しい事業を追加した場合には、また1年後に選考の対象として審査していただくようになると思う。

(委員)延長する場合は、新規に事業が追加されるという判断で、従来の形のものを延長する、事業期間を延ばすという形での申請を認めないということか。簡単に言うと、期間

が5年間になったということで、同じ形の事業を5年間の申請という形で出すのは認められるのか、それとも認められないのかという質問である。

(事務局)年数だけが延びるということによろしいか。

(委員)基本的にはそういうこと。新しい事業が入れば、当然審査対象になると思う。

(事務局)はい、審査対象になる。

(委員)基本的には2年で申請した事業を5年間に延長させてくださいというのが認められるということか。

(事務局)はい。トータルで5年間の事業期間は認められるので、申請があった場合、事業内容等に変更がなければ、審査することなく認められる。ただ、補助金額が増えた場合、2割以上増額になる事業については、選考の対象になる。

(委員)今までは、団体は2年間の申請だった。今回延長したということで、5年間の計画にするということで申請した場合は、当然対象になるということか。

(事務局)事業内容と金額等を確認してからになるかと思う。2年間の事業ということで、1年前に選考して採択になっている事業が2件ある。100万円で2年間ということで、既に昨年お墨付きをいただいている。この団体は1年目が終わったわけであるが、来年25年度も事業内容を変更することなく、補助合計額が2割増額の範囲内の事業であれば、選考する必要がないと判断している。

(委員)もう3年間か。

(事務局)事業内容が変わらず、総金額的にも2割増額の範囲内で済むのであれば、選考する必要がないが、この例でいうと、選考時点の採択期間は2年間なので、3年目となる申請時点からは選考対象となると考えている。

(委員)2年目の申請は自動的に認められるということか。

(事務局)はい、申請内容を確認のうえ認められるということ。

(委員)「継続性・発展性」について。遊歩道や散歩道、ウォーキングコースなど、工事は1、2年程度で終わると思うが、工事が終わった後、ふれあいウォーキングなどやっていることが「継続性」ということになるのか。見解をお聞きしたい。

(事務局)整備された目的が、後々そのように使われることを目的として整備されることに、市が補助金を出してきっかけづくりをしたと理解している。それそのものが「継続性」ではないかと思う。

(2) 次回以降の会議の日程等について

- ・第14回丸子地域協議会 平成25年3月18日(月曜日)午後1時30分から
丸子地域自治センター4階 講堂
(わがまち魅力アップ応援事業 プレゼンテーション選考)

主な質疑の内容

- (会長)開始が1時30分からで間に合うか。
- (事務局)申請団体の数があまりに多い場合には、別途正副会長と協議したうえで、開催時間を早めることもあり得るかと思う。正副会長との打ち合わせということによろしいか。現在、約10団体からの問い合わせがある。
- (会長)時間的に1件20分、10件で3時間20分。総合評価含めてもう少し掛かる。
- (委員)先ほど、丸子ドドンコ見直しに関する研究会を12時30分から1時30分まで開催したいと提案してしまったが。
- (会長)そちらも考慮しながら、決定したい。

(3) その他

- (委員)市民団体交流会で信州国際音楽村公園バラの会と懇談した時に、県の助成の元気づくり支援金ではなく、林業関係、山林整備の補助金という回答があった。詳細を十分理解していなかったためよくわからなかった。もしこの場でわかれば教えてほしい。

(会長)調べて、また報告いただきたい。

(地域振興政策幹)前回、委員から質問があった高浜虚子の句碑について報告したい。丸子文化会館付近、依田川沿いの遊歩道の側にある高浜虚子の句碑には、「丸子公園 依田川の薫風ここに宮柱」という歌が刻まれている。結論から言うと、これは平成元年のふるさと創生事業1億円を使い、そこにプラス、国の地域づくり推進事業の指定を受け、平成元年から平成4年にかけて新しく作ったものということである。具体的には、ふるさと創生資金の1億円の使い道をどうするかということで、町民の皆さんに募集をした。そこで、「丸子城山自然公園」と「つつじと野外彫刻の里」、このプランのアイデアが出され、それを拡大・発展し、「丸子四季の里文化公園整備事業」という形にし、丸子公園一帯と依田川沿いに遊歩道を作り、そこに俳句の句碑と短歌の歌碑、彫刻2点を設置するという事業を実施した。その中の一つに、この虚子の句碑があるということで、この歌は、昭和21年から22年頃に、現在のシナノケンシの東内工場のところにあった濱野という会社で句会が行われ、そこで虚子が作った歌ということである。その関連で、場所も全て事業の中で選定。協議をした結果、今の場所がいいだろうということで、高浜虚子の遺族の了解を得ながら設置したということ。移転したわけではなく、新しく作ったということである。

(委員)以前に、木曾義仲のまちおこしということで、日義村かどこかと連携しているという話があった。NHK大河ドラマに取り上げてくれというような話が出ていたような気がするが、真田幸村公のNHK大河ドラマとの関係性をお聞きしたい。

(産業観光課長)現在、上田市としては、真田幸村の大河ドラマ放映に向けて署名活動を行っている。木曾義仲については、木曾義仲広域連携推進会議というものがあり、富山市、北陸方面を中心に大河ドラマの放映について署名活動をしているわけであるが、上田市の署名活動としては、真田幸村の方を行っているということである。

5 閉会 14:55 地域協議会終了後、分科会開催(第2、4会議室)